



架け橋

第9号

(令和3年12月1日発行)

ホームページ：<http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail：mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標：ゆたかに・かしこく・たくましく

「一生懸命」

校長 芳崎 正道

先月11月、PTAの方々と本校職員の小島良司さんが中心となり、職員玄関から体育館までの花壇数か所に、パンジーを植え付けてくれました。パンジーは、よく面倒をみてあげれば、半年近くも咲いている花で、寄せ植え、花壇など、いろいろな用途で園芸には欠かせない草花のひとつです。パンジーは寒さには強いので、寒冷地以外では露地で越冬可能です。これから寒さが本番を迎えますが、健気に咲いているパンジーを見ていると、気ぜわしい師走でも、パンジーが優しく微笑みかけてくれているような気持ちになります。



パンジー（職員玄関横）

さて、今年、メジャーリーグで MVP（最優秀選手）に選出されるなど、連日、大きな活躍をしていた大谷選手。先日、その活躍ぶりを特集するTV番組の中で、印象に残った言葉がありました。それは、大谷選手の小学生時代、指導者でもあったお父さんが繰り返し伝えていた言葉です。

「一生懸命元気に声を出す」 「一生懸命キャッチボールをする」 「一生懸命走る」

「三つのポイントをしっかりやれ。本当に一生懸命にやれば必ずよいことがある」

「ヒットを打ちなさいとか、エラーをするなとか、ファインプレーをしなさいとかっていうことではなくて、ごくごく誰でもできることを中心に、その三つのことをきちっと地道にやっつけさえすれば、成長につながっていくのではないかなと」「大きくなっても、そこはやっぱり大切なことだと伝えてきました。基本的に投げたり、打ったり、走ったり、という所は、子どもの頃から全く変わっていない。あのままです。」

プレーの内容よりも、野球に対する姿勢を大切にされたお父さん。そしてその教えが体にしみついた大谷選手は、メジャーの舞台でも、常に「一生懸命」に、投げて、打って、走っています。まるで少年のように、グラウンドで躍動しています。大谷選手は、数々の偉業を達成するとともに、その姿勢がアメリカの人々の心を打ったのです。

「一生懸命〇〇する」。常に、忘れず、「一生懸命」、地道に取り組むこと。口で言うのは簡単ですが、それを常に実践するのはたやすいことではないでしょう。現在の活躍の原点は、「一生懸命」の積み重ねにあったことに、改めて敬服するとともに、大いに見習いたいと感じました。

保護者の方々、地域・関係の皆様におかれましては、校内消毒活動、チャレンジスクールなど、多くの方々にたいへんお世話になっており、紙面上でのあいさつで恐縮ながら、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。来年も変わらぬ御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げて、年末のあいさつとさせていただきます。